

2024年1月に電子カルテシステムが更新されました。これに伴い、今まではできなかったことができるようになる予定ですので、ご紹介したいと思います。(診療科や状況により機能制限がある場合があります。)

患者さん用のアプリの導入 2024年3月開始予定

- 1 検査や診察の前日にアプリにお知らせが届きます。予約や注意事項の忘却予防になります。
- 2 診療状況のお知らせ
外来診察の待ち状況をアプリで確認することが可能になります。
- 3 予約表示
次回の予約状況をアプリで確認することが可能になります。
- 4 診療情報の確認
処方や血液検査結果をアプリで確認可能になります。



オンライン診療 2024年3月開始予定

患者さん用のアプリを用いて、オンライン診療が可能になります。



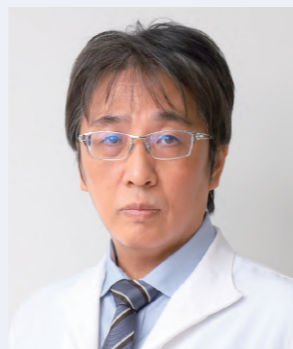
BCP対策（災害時のオンラインデータバックアップ）

電子カルテシステム、医事会計システム等のデータを遠隔地データセンターに保存し、失われたデータの復旧を可能とします。

テレワーク 2024年1月末開始予定

医師の働き方改革も兼ねて、院外からの電子カルテのオーダーが可能なシステムを導入します。

みなさまのお役に立てるようなシステム作りを目指したいと考えておりますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。



医療情報部 (M&D)
診療部長 吉田 陽一郎
よした よういちろう

病院長就任および新年のご挨拶

謹んで新春のお慶びを申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

私は、2023年12月1日より新たに病院長を拝命いたしました。これまでの病院長の方々が育ててこられた当院の基本理念である「あたたかい医療」の意思を引き継ぎ取り組んで参りますので、何卒よろしくお願いいたします。

最近の医療におけるキーワードは、「地域医療連携」と「多職種協働」や「チーム医療」です。福岡大学では、地域医療に貢献すべく、3つの病院「福岡大学病院」、「福岡大学筑紫病院」、「福岡大学西新病院」において、医療連携を展開しております。何と云っても「患者さん中心の地域に信頼される医療の提供」を心がけ、他の医療機関からの紹介患者さんを速やかに受け入れるようにしております。従いまして、当院は、地域医療の中核病院であるとともに、地域の皆様の下支えとなる病院として力を注いでおります。また、当院には、約2000人の職員が働いています。医師、看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、医療事務などのメディカルスタッフによる「多職種協働」によって、患者さんの検査・治療に従事しております。さらに、医療安全、感染対策、リハビリテーション、栄養サポートなどの多方面で「チーム医療」を



展開しております。

福岡大学病院は、2011年1月に新診療棟をオープンして、一部の外来と病棟機能を移転しました。2021年10月から着工した新本館は、いよいよ2024年5月に開院予定です。特定機能病院として、高度医療(検査・診断・治療)の提供を実践して参りました。最新機種(daVinci Xi)を用いたロボット支援手術、肺移植、角膜移植、腎移植など臓器移植治療や膵島移植など再生移植等の移植医療、低侵襲心血管カテーテル治療(経カテーテル的大動脈弁移植術、ステントグラフト治療、僧帽弁閉鎖不全症に対するMitraClip治療など)、高精度放射線治療機器等の最先端治療を整備しています。また、救命救急センターをはじめ、ハートセンター、脳卒中センター、総合周産期母子医療センター、小児医療センター、消化器センター、

女性診療センター、心臓リハビリテーションセンター、運動器・脊椎・脊髄センターなどにセンター化し、専門性を高めております。

今後も地域医療のニーズに応えるべく発展的改革を実現する所存ですので、ご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



福岡大学病院
病院長 三浦 伸一郎
みうら しんいちろう

新本館の開院にあたって

2021年10月に着工した新本館が、いよいよ2024年5月に開院を迎えます



油山側から見た新本館（仮称） 屋上にヘリポートを設置しました。奥は福岡タワーや福岡 PayPay ドーム

新本館は、51,000㎡を超える延床面積、病床数618床を擁する建物となります。これまで、

昭和48年に竣工した本館が当院の中心的な役割を果たしていましたが、老朽化に伴う課題も散

見され、本館の建て替えは全職員の悲願となっていました。

新型コロナウイルス感染症では感染対策の重要性を改めて認識させられたところですが、新興感染症への対策として随所に陰圧切り替え可能な病室を配置するとともに、感染拡大時には病棟をまるごと陰圧区画として扱うことができる機能を持たせるなど、これまでの経験を踏まえ十分な対策を講じました。

近年各地で自然災害が発生していますが、当院は国から災害拠点病院の指定を受けています。新本館では、診療機能維持の



病室の完成予想図

観点から免震機能を持たせ、これまで地上に設置していたヘリ

ポートを新たに屋上に設置し、より広域での患者対応が可能となっています。

また、療養環境の改善に向け、患者さんの「待ち時間」を「豊かな時間」に変えるべく建物の中心となる1階に医療情報を発信し様々な人との交流が可能となるスペースの設置、新たな食事提供方式による満足度の高い温かい食事の提供、ベッドに横になったままでも外の景色が眺められる病室レイアウトといった様々な工夫を凝らしました。



1階ロビー

当院は高度な医療を提供する特定機能病院として施設設備の充実を図りながら、引き続き地域とともに歩み、与えられた使命を全うしてまいります。

今回、新本館の建設にあたっては、次のコンセプトを掲げました。

- ◆ 病院理念の実現と基本方針の遂行
- ◆ 安全な医療の提供
- ◆ 患者さんにやさしい病院
- ◆ 近未来の医療環境に対応できる病院づくり
- ◆ 高度先駆的医療が提供できる病院
- ◆ わかりやすい医療を提供する病院
- ◆ 地域医療の中心的な役割を果たす病院



写真中央左から、新本館（仮称）、新診療棟、本館、救命救急センター棟、研修センター棟など